



## Cisco Serviceability Reporter

- [サービスアビリティ レポートのアーカイブ \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Serviceability Reporter 設定タスク フロー \(2 ページ\)](#)
- [日次レポートの要約 \(4 ページ\)](#)

### サービスアビリティ レポートのアーカイブ

Cisco Serviceability Reporter サービスは、特定のレポートについて統計情報のサマリーを表示するグラフを含む、日報を生成します。Reporter は、ログに記録された情報に基づいてレポートを 1 日 1 回生成します。

Serviceability GUI を使用して、[ツール (Tools)] > [サービスアビリティ レポートのアーカイブ (Serviceability Reports Archive)] からレポートを表示します。レポートを表示する前に、Cisco Serviceability Reporter サービスをアクティブ化する必要があります。サービスをアクティブ化した後、レポートの生成に最大 24 時間かかる場合があります。

レポートには、前日の 24 時間のデータが含まれます。レポート名に追加されるサフィックスは、Reporter がレポートを生成した日付を表します。たとえば、AlertRep\_mm\_dd\_yyyy.pdf です。[サービスアビリティ レポートのアーカイブ (Serviceability Reports Archive)] ウィンドウでは、この日付を使用して該当する日付だけのレポートを表示します。レポートは、前日のタイムスタンプを持つログファイルにあるデータから生成されます。システムは、現在の日付と過去 2 日間のログ ファイルを対象にデータを収集します。

レポートに表示される時刻は、サーバの「システム時刻」が反映されます。

レポートの生成中にサーバからログ ファイルを取得できます。



- (注) Cisco Unified Reporting Web アプリケーションは、1つの出力にデータのスナップショットビューを提供し、データチェックを実行します。また、生成されたレポートをアーカイブすることもできます。詳細については、『Cisco Unified Reporting Administration Guide』を参照してください。

### サービスアビリティ レポートのアーカイブのクラスタ構成に関する考慮事項

この項では、Unified Communications Manager および IM and Presence Service のみに適用されません。

- Cisco Serviceability Reporter は最初のサーバでのみアクティブなため、Reporter は常に、他のサーバではなく、最初のサーバでのみレポートを生成します。
- レポートに表示される時刻には、最初のサーバの「システム時刻」が反映されます。最初のサーバとそれに続くサーバが異なる時間帯に設置されている場合は、最初のサーバの「システム時刻」がレポートに表示されます。
- クラスタ内のサーバ ロケーション間のタイムゾーンの差は、レポート用にデータが収集されるときに考慮されます。
- レポートの生成時に、個々のサーバまたはクラスタ内のすべてのサーバからログファイルを選択できます。
- Cisco Unified Reporting Web アプリケーションの出力やデータ チェックには、アクセス可能なすべてのサーバからのクラスタ データが含まれます。

## Cisco Serviceability Reporter 設定タスク フロー

Cisco Serviceability Reporter による日次システム レポートを設定するには、次のタスクをすべて行います。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<a href="#">Cisco Serviceability Reporter のアクティブ化 (2 ページ)</a>	日次レポートを生成するためには、 <b>Cisco Serviceability Reporter</b> サービスが実行されている必要があります。
ステップ 2	<a href="#">Cisco Serviceability Reporter の設定 (3 ページ)</a>	Cisco Serviceability Reporter のスケジュール設定を行います。
ステップ 3	<a href="#">日次レポート アーカイブの表示 (4 ページ)</a>	システムによる日次レポートの生成後、このタスクを使用して PDF ファイル形式で日次レポートを表示します。

## Cisco Serviceability Reporter のアクティブ化

次の手順を使用して、**Cisco Serviceability Reporter** による日次システム レポートを有効にします。レポートを生成するには、サービスをアクティブ化する必要があります。

## 手順

- ステップ 1 Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスの有効化 (Service Activation)] を選択します。
- ステップ 2 サーバを選択し、[Go (移動)] をクリックします。
- ステップ 3 [パフォーマンスおよびモニタリング サービス (Performance and Monitoring Services)] の下で、Cisco Serviceability Reporter サービスのステータスを確認します。
- ステップ 4 サービスが非アクティブ化されている場合は、隣接するオプションボタンにチェックを入れ、[保存 (Save)] をクリックします。



- (注) レポートは毎日生成されます。最初のレポートが生成されるまで最大 24 時間かかる場合があります。

## Cisco Serviceability Reporter の設定

Cisco Serviceability Reporter が生成する日次レポートのスケジュール設定を行います。

### 手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
- ステップ 2 Cisco Serviceability Reporter を実行しているサーバを選択します。
- ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウン リストから、[Cisco Serviceability Reporter] を選択します。
- ステップ 4 次のサービス パラメータを設定します。
  - **RTMT Reporter Designated Node** : RTMT Reporter が動作する指定ノードを指定します。Cisco では、コール処理を行わないノードを割り当てることを推奨しています。
  - **Report Generation Time** : レポートが生成される時刻を、午前 0 時からの時間 (分単位) で指定します。指定範囲は 0 ~ 1439 で、デフォルト設定は 30 分です。
  - **Report Deletion Age** : レポートをディスクに保存する日数。指定範囲は 0 ~ 30 で、デフォルト設定は 7 日間です。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

## 日次レポート アーカイブの表示

Cisco Serviceability Reporter による日次レポートの生成後、次の手順を使用して PDF ファイル形式のレポートを表示します。

### 手順

**ステップ 1** [ツール (Tools) ] > [サービスアビリティ レポートのアーカイブ (Serviceability Reports Archive) ] を選択します。

**ステップ 2** レポートを表示したい月と年を選択します。  
選択した月に対応する日の一覧が表示されます。

**ステップ 3** 生成されたレポートを表示したい日付をクリックします。

**ステップ 4** 表示したいレポートをクリックします。

(注) PDF 形式でレポートを表示するには、Acrobat Reader をインストールしてください。Acrobat Reader をダウンロードするには、[Serviceability Reports Archive] ウィンドウの下部にあるリンクをクリックします。

## 日次レポートの要約

Cisco Serviceability Reporter によって、次のシステム レポートが毎日生成されます。

- デバイス統計レポート
- サーバ統計レポート
- サービス統計レポート
- コール アクティビティ レポート
- アラート サマリー レポート
- パフォーマンス保護レポート

## デバイス統計レポート

デバイス統計レポートは、IM and Presence Service および Cisco Unity Connection には適用されません。

デバイス統計レポートでは、次の折れ線グラフが表示されます。

- サーバごとの登録済み電話機の数
- クラスタ内の H.323 ゲートウェイの数

- クラスタ内のトランクの数

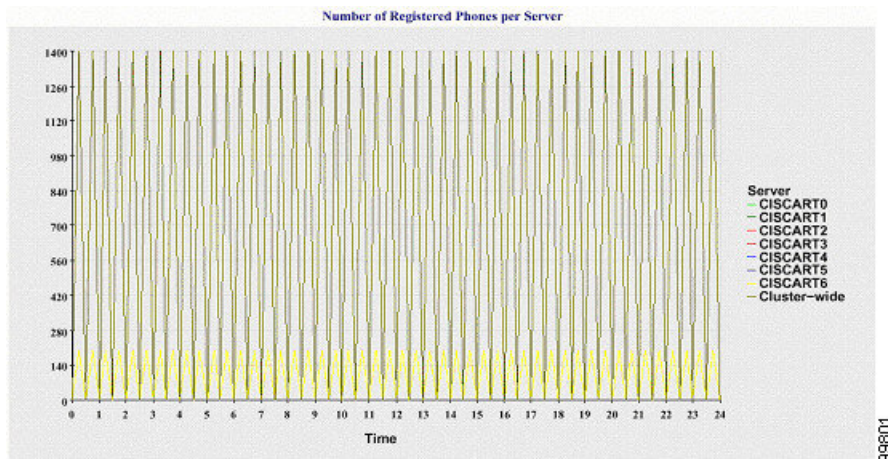
### サーバごとの登録済み電話機の数

折れ線グラフには、Unified Communications Manager の各サーバ（および Unified Communications Manager クラスタ構成のクラスタ）に登録された電話機の数が表示されます。グラフの各線はデータが利用できるサーバのデータを表し、もう 1 本はクラスタ全体のデータを示します

（Unified Communications Manager クラスタのみ）。グラフ内の各データ値は、15 分の間に登録された電話機の平均数を表します。サーバにデータが表示されない場合、そのサーバを表す線は生成されません。データがサーバ（または Unified Communications Manager クラスタ構成のすべてのサーバ）に存在しない場合、Reporter はグラフを生成しません。「利用可能なデバイス統計レポートのデータがありません」のメッセージが表示されます。

図 1: サーバごとの登録済み電話機の数を示す折れ線グラフ

以下の図では、Unified Communications Manager のクラスタ構成内の Unified Communications Manager サーバごとの登録済み電話機の数を表す折れ線グラフの例を示しています。

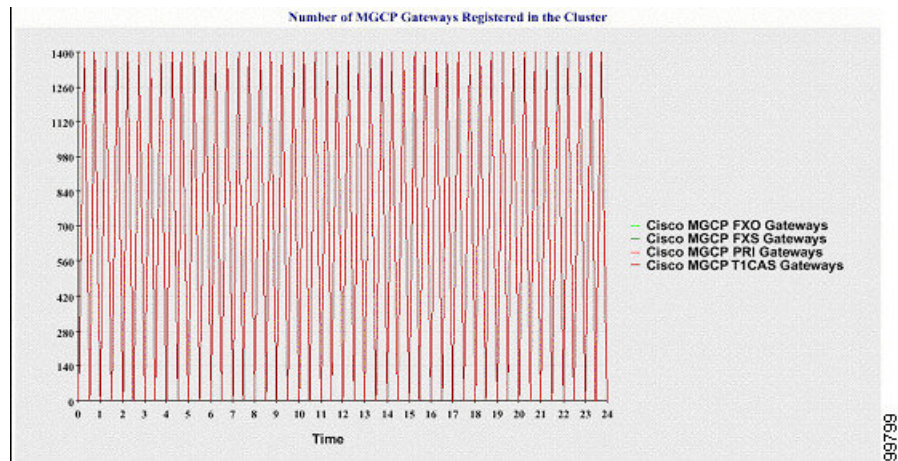


### クラスタ内の登録済み MGCP ゲートウェイの数

折れ線グラフには、登録済み MGCP FXO、FXS、PRI、T1CAS ゲートウェイの数が表示されます。各線は、Unified Communications Manager サーバ（または Unified Communications Manager クラスタ構成のクラスタ）のデータだけを表します。つまり、4 本の線は各ゲートウェイタイプのサーバ（またはクラスタ全体）の詳細を示します。グラフ内の各データ値は、15 分の間に登録された MGCP ゲートウェイの平均数を表します。あるゲートウェイに関するデータがサーバ（またはクラスタ内のすべてのサーバ）に存在しない場合、そのゲートウェイのデータを表す線は生成されません。すべてのゲートウェイに関するデータがサーバ（またはクラスタ内のすべてのサーバ）に存在しない場合、グラフは生成されません。

図 2: クラスタごとの登録済みゲートウェイの数を示す折れ線グラフ

次の図は、Unified Communications Manager クラスタ構成におけるクラスタごとの登録済みゲートウェイの数を表す折れ線グラフの例を示しています。

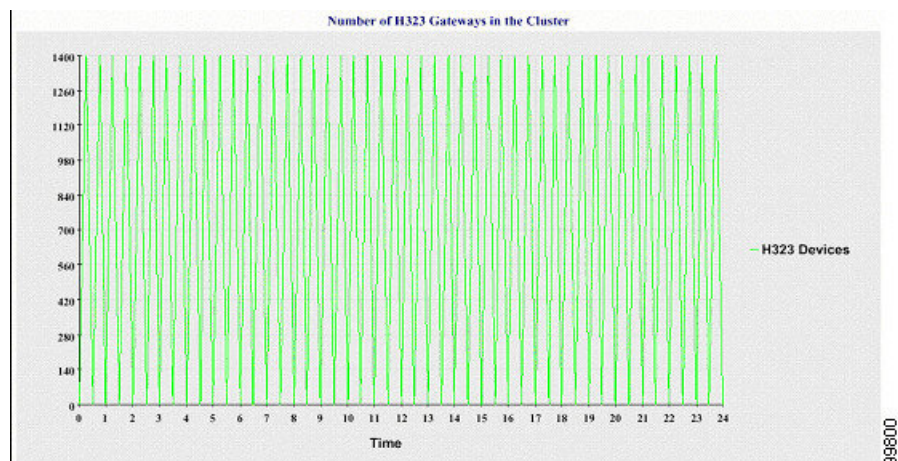


### クラスタ内の H.323 ゲートウェイの数

折れ線グラフには、H.323 ゲートウェイの数が表示されます。1本の線は、H.323 ゲートウェイの詳細（あるいは Unified Communications Manager のクラスタ構成のクラスタ全体の詳細）を示しています。グラフ内の各データ値は、15分間での H.323 ゲートウェイの平均数を表します。サーバ（またはクラスタ内のすべてのサーバ）の H.323 ゲートウェイに関するデータが存在しない場合、グラフは生成されません。

図 3: クラスタごとの登録済み H.323 ゲートウェイの数を示す折れ線グラフ

次の図は、Unified Communications Manager クラスタ構成のクラスタごとの H.323 ゲートウェイの数を表す折れ線グラフの例を示しています。



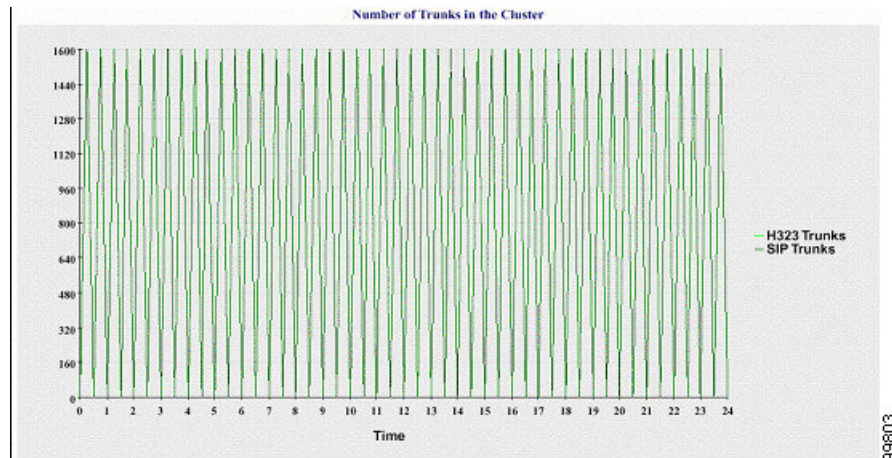
### クラスタ内のトランクの数

折れ線グラフには、H.323 および SIP トランクの数が表示されます。2本の線が、H.323 トランクおよび SIP トランクの詳細（または Unified Communications Manager のクラスタ構成のクラスタ全体の詳細）を示します。グラフ内の各データ値は、15分間での H.323 および SIP トランクの平均数を表します。サーバ（またはクラスタ内のすべてのサーバ）の H.323 トランクに関するデータが存在しない場合、H.323 トランクのデータを表す線は生成されません。サーバ（ま

たはクラスタ内のすべてのサーバ) の SIP トランクに関するデータが存在しない場合、SIP トランクのデータを表す線は生成されません。トランクに関するデータがまったく存在しない場合、グラフは生成されません。

図 4: クラスタごとのトランクの数を示す折れ線グラフ

次の図は、Unified Communications Manager クラスタ構成のクラスタごとのトランクの数を表す折れ線グラフの例を示します。



サーバ (またはクラスタ内の各サーバ) には、ファイル名パターン DeviceLog\_mm\_dd\_yyyy\_hh\_mm.csv に一致するログファイルが格納されています。ログファイルには次の情報が格納されています。

- サーバ (または Unified Communications Manager クラスタ内の各サーバ) 上の登録済み電話機の数
- サーバ (または Unified Communications Manager クラスタ内の各サーバ) 上の登録済み MGCP FXO、FXS、PRI、および T1CAS ゲートウェイの数
- サーバ (または Unified Communications Manager クラスタ内の各サーバ) 上の登録済み H.323 ゲートウェイの数
- SIP トランクと H.323 トランクの数

## サーバ統計レポート

サーバ統計レポートでは、次の折れ線グラフが表示されます。

- サーバごとの CPU のパーセンテージ
- サーバごとのメモリ使用率のパーセンテージ
- サーバごとの最大パーティションのハードディスク使用率のパーセンテージ

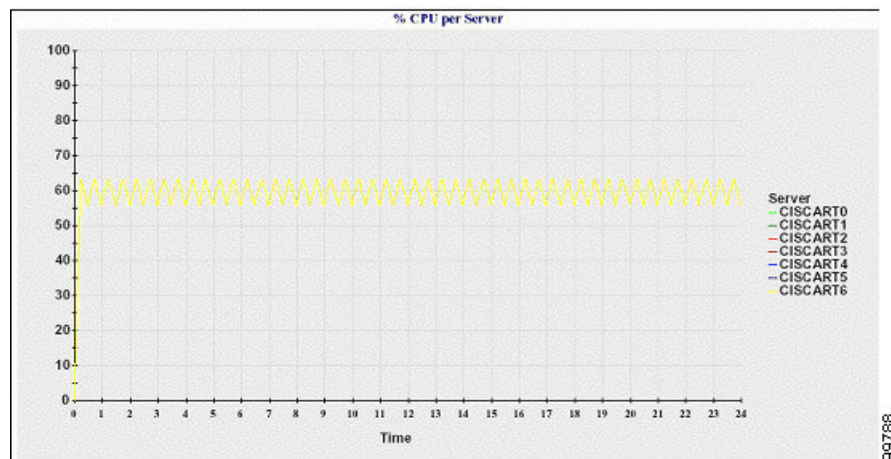
クラスタ固有の統計情報は、Unified Communications Manager および IM and Presence Serviceでのみサポートされます。

### サーバごとの CPU のパーセンテージ

折れ線グラフには、サーバ（またはクラスタ内の各サーバ）の CPU 使用率のパーセンテージが表示されます。グラフの折れ線は、データが利用できるサーバのデータを表します（または、クラスタ内のサーバごとに1本の折れ線）。グラフ内の各データ値は、15分間の平均 CPU 使用率を表します。サーバ（またはクラスタ内のいずれかのサーバ）のデータが存在しない場合、そのサーバを表す線は生成されません。生成する線がない場合は、Reporter はグラフを作成しません。「利用可能なサーバ統計レポートのデータがありません」のメッセージが表示されます。

図 5: サーバごとの CPU のパーセンテージを示す折れ線グラフ

次の図は、Unified Communications Manager のクラスタ構成でサーバごとの CPU 使用率のパーセンテージを表す折れ線グラフの例を示します。



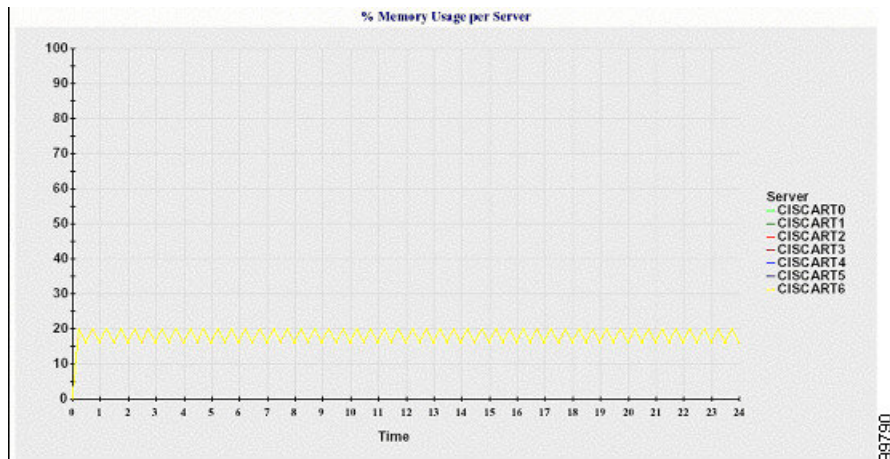
### サーバごとのメモリ使用率のパーセンテージ

折れ線グラフには、Unified Communications Manager サーバのメモリ使用率のパーセンテージ (%MemoryInUse) が表示されます。Unified Communications Manager クラスタ構成では、データが利用できるクラスタ内のサーバごとに1本の線があります。グラフ内の各データ値は、15分間の平均メモリ使用率を表します。データが存在しない場合はグラフが生成されません。クラスタ構成でいずれかのサーバのデータが存在しない場合、Reporter はそのサーバを表す線を生成しません。

図 6: サーバごとのメモリ使用率のパーセンテージを示す折れ線グラフ

次の図は、クラスタ構成で Unified Communications Manager サーバあたりのメモリ消費率を示す線グラフの例を示します。



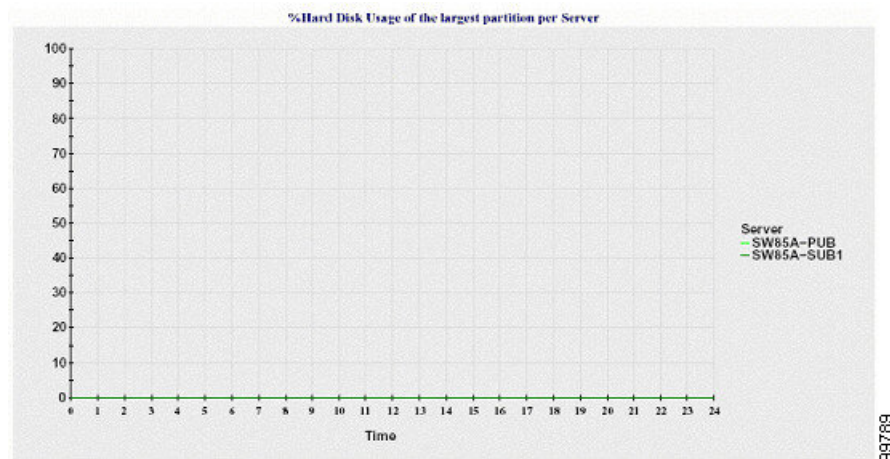


### サーバごとの最大パーティションのハードディスク使用率のパーセンテージ

折れ線グラフには、サーバまたはクラスタ構成の各サーバ上の最大パーティションのディスク領域使用率のパーセンテージ (%DiskSpaceInUse) が表示されます。グラフ内の各データ値は、15 分間の平均ディスク使用率を表します。データが存在しない場合はグラフが生成されません。クラスタ構成でいずれかのサーバのデータが存在しない場合、Reporter はそのサーバを表す線を生成しません。

図 7: サーバごとの最大パーティションのハードディスク使用率のパーセンテージを示す折れ線グラフ

次の図は、Unified Communications Manager のクラスタ構成でサーバごとの最大パーティションのハードディスク使用率のパーセンテージを表す折れ線グラフの例を示します。



サーバ（またはクラスタ構成内の各サーバ）には、ファイル名パターン `ServerLog_mm_dd_yyyy_hh_mm.csv` に一致するログファイルが格納されています。ログファイルには次の情報が格納されています。

- サーバ（またはクラスタ内の各サーバ）での CPU 使用率
- サーバ（またはクラスタ内の各サーバ）でのメモリ使用率 (%MemoryInUse)

- サーバ（またはクラスタの各サーバ）の最大パーティションのハードディスク使用率 (%DiskSpaceInUse)

## サービス統計レポート

サービス統計レポートは、IM and Presence Service および Cisco Unity Connection をサポートしていません。

サービス統計レポートでは、次の折れ線グラフが表示されます。

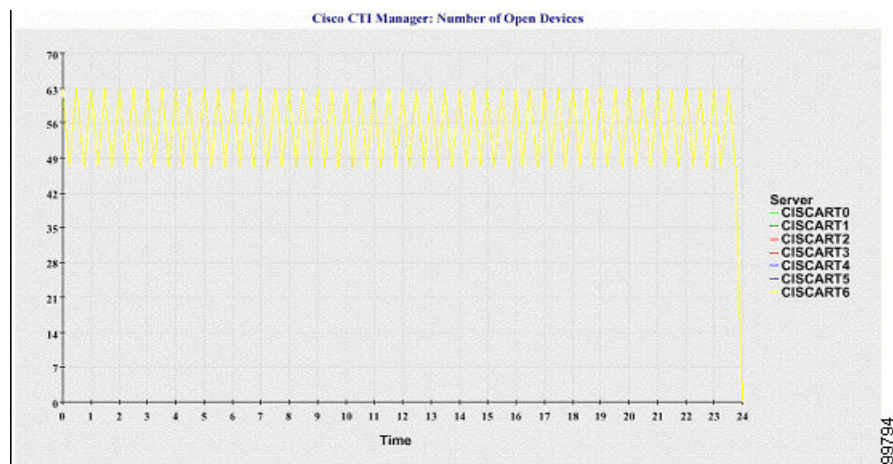
- Cisco CTI Manager : オープン デバイスの数
- Cisco CTI Manager : オープン回線の数
- Cisco TFTP : 要求の数
- Cisco TFTP : 中断された要求の数

### Cisco CTI Manager : オープン デバイスの数

折れ線グラフには、CTI Manager（または Unified Communications Manager クラスタ構成内の各 CTI Manager）の CTI オープン デバイスの数が表示されます。各折れ線グラフは、サービスがアクティブなサーバ（または Unified Communications Manager のクラスタ内の各サーバ）のデータを表します。グラフ内の各データ値は、15 分間の CTI オープン デバイスの平均数を表します。データが存在しない場合はグラフが生成されません。Unified Communications Manager クラスタ構成でいずれかのサーバのデータが存在しない場合、Reporter はそのサーバを表す線を生成しません。「利用可能なサービス統計レポートのデータがありません」のメッセージが表示されます。

図 8 : Cisco CTI Manager : オープン デバイスの数を示す折れ線グラフ

次の図は、Unified Communications Manager のクラスタ構成で Cisco CTI Manager あたりのオープン デバイスを表す折れ線グラフの例を示します。

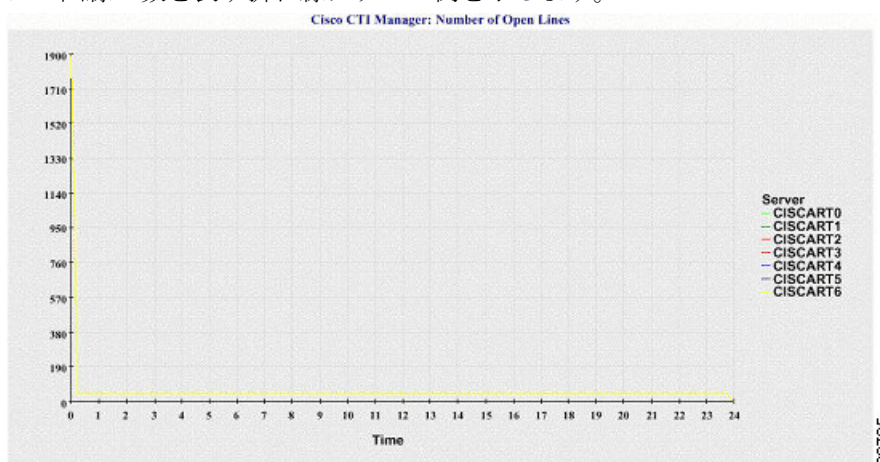


### Cisco CTI Manager : オープン回線の数

折れ線グラフには、CTI Manager（または Unified Communications Manager クラスタ構成内の CTI Manager ごと）の CTI オープン回線の数が表示されます。グラフの折れ線は、Cisco CTI Manager サービスがアクティブなサーバのデータを表します（または Unified Communications Manager クラスタ構成内のサーバごとに 1 本の線）。グラフ内の各データ値は、15 分間の CTI オープン回線の平均数を表します。データが存在しない場合はグラフが生成されません。Unified Communications Manager クラスタ構成でいずれかのサーバのデータが存在しない場合、Reporter はそのサーバを表す線を生成しません。

図 9: Cisco CTI Manager : オープン回線の数を示す折れ線グラフ

次の図は、Unified Communications Manager のクラスタ構成内の Cisco CTI Manager ごとのオープン回線の数を表す折れ線グラフの例を示します。

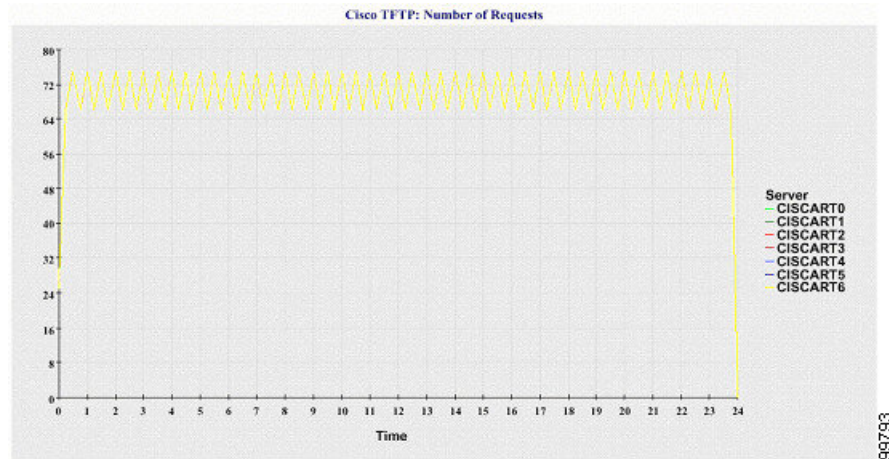


### Cisco TFTP : 要求の数

折れ線グラフには、TFTP サーバ（または Unified Communications Manager クラスタ構成内の TFTP サーバごと）の Cisco TFTP 要求の数が表示されます。グラフの折れ線は、Cisco TFTP サービスがアクティブなサーバのデータを示します（または Unified Communications Manager クラスタ内のサーバごとに 1 本の線）。グラフ内の各データ値は、15 分間の TFTP 要求の平均数を表します。データが存在しない場合はグラフが生成されません。Unified Communications Manager クラスタ構成でいずれかのサーバのデータが存在しない場合、Reporter はそのサーバを表す線を生成しません。

図 10: Cisco TFTP : 要求の数を示す折れ線グラフ

次の図は、TFTP サーバごとの Cisco TFTP 要求の数を表す折れ線グラフの例を示します。

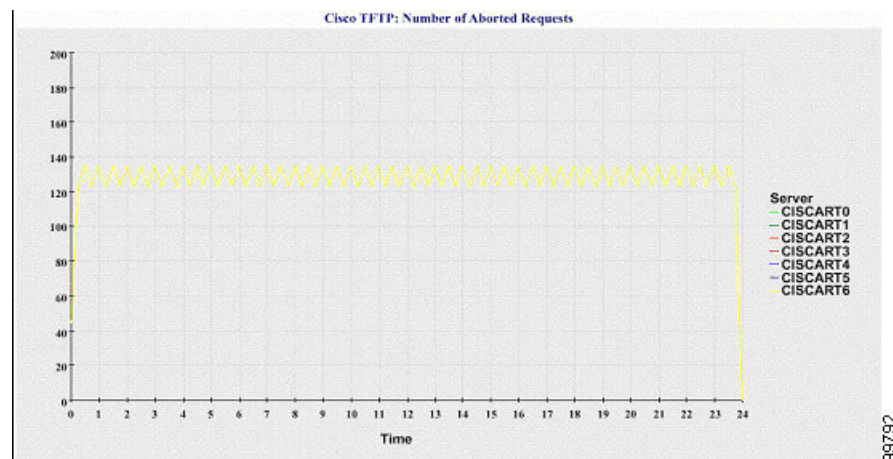


### Cisco TFTP : 中断された要求の数

折れ線グラフには、TFTP サーバ（または Unified Communications Manager クラスタ構成内の TFTP サーバごと）の中断された Cisco TFTP 要求の数が表示されます。グラフの折れ線は、Cisco TFTP サービスがアクティブなサーバのデータを示します（または Unified Communications Manager クラスタ内のサーバごとに 1 本の線）。グラフ内の各データ値は、15 分間の中断された TFTP 要求の平均を表します。データが存在しない場合はグラフが生成されません。Unified Communications Manager クラスタ構成でいずれかのサーバのデータが存在しない場合、Reporter はそのサーバを表す線を生成しません。

図 11 : Cisco TFTP : 中断された要求の数を示す折れ線グラフ

次の図は、TFTP サーバごとに中断された Cisco TFTP 要求の数を表す折れ線グラフの例を示します。



サーバ（または Unified Communications Manager クラスタ内の各サーバ）には、ファイル名パターン ServiceLog\_mm\_dd\_yyyy\_hh\_mm.csv に一致するログファイルが格納されています。ログファイルには次の情報が格納されています。

- 各 CTI Manager : オープン デバイスの数

- 各 CTI Manager : オープン回線の数
- 各 Cisco TFTP サーバ : TotalTftpRequests
- 各 Cisco TFTP サーバ : TotalTftpRequestsAborted

## コール アクティビティ レポート

コール アクティビティ レポートは、IM and Presence Service および Cisco Unity Connection をサポートしていません。

コール アクティビティ レポートでは、次の折れ線グラフが表示されます。

- クラスタの Unified Communications Manager コール アクティビティ
- クラスタの H.323 ゲートウェイ コール アクティビティ
- クラスタの MGCP ゲートウェイ コール アクティビティ
- MGCP ゲートウェイ
- クラスタのトランク コール アクティビティ

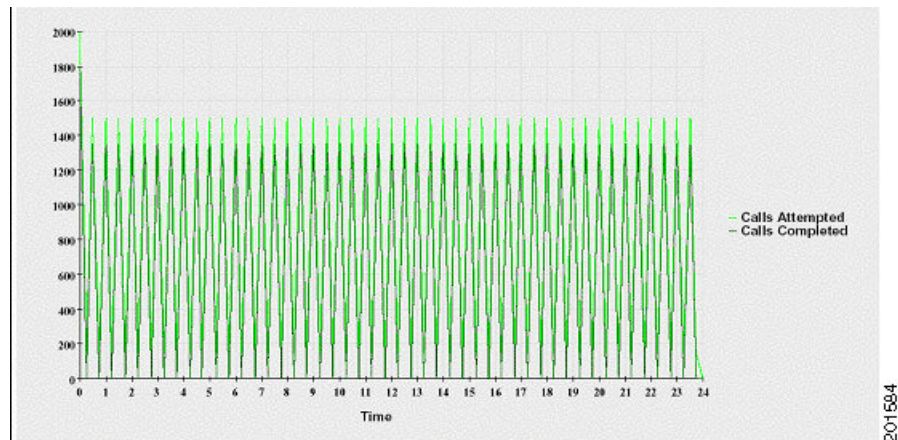
### クラスタの Cisco Unified Communications Manager コール アクティビティ

折れ線グラフには、Unified Communications Manager の試行されたコールと完了したコールの数が表示されます。Unified Communications Manager のクラスタ構成では、折れ線グラフはクラスタ全体の試行されたコールと完了したコールの数を表します。グラフは2本の線で構成されます。1本は試行されたコールの数、もう1本は完了したコールの数を示します。Unified Communications Manager のクラスタ構成では、各線はクラスタ値を表します。これは（データが利用できる）クラスタ内のすべてのサーバの値の合計です。グラフ内の各データ値は、15分間に試行されたコールと完了したコールの総数を表します。

完了した Unified Communications Manager のコールのデータがない場合、Reporter は完了したコールのデータを表す線を生成しません。試行された Unified Communications Manager コールのデータが存在しない場合、試行されたコールのデータを表す線は生成されません。Unified Communications Manager のクラスタ構成では、クラスタ内のサーバのデータがない場合、Reporter はそのサーバで試行されたコールまたは完了したコールを表す線を生成しません。Unified Communications Manager コール アクティビティのデータがまったく存在しない場合、グラフは生成されません。「利用可能なコールアクティビティレポートのデータがありません」のメッセージが表示されます。

図 12: クラスタの Cisco Unified Communications Manager コール アクティビティを示す折れ線グラフ

次の図は、Unified Communications Manager クラスタの試行されたコールと完了したコールを表す折れ線グラフを示しています。

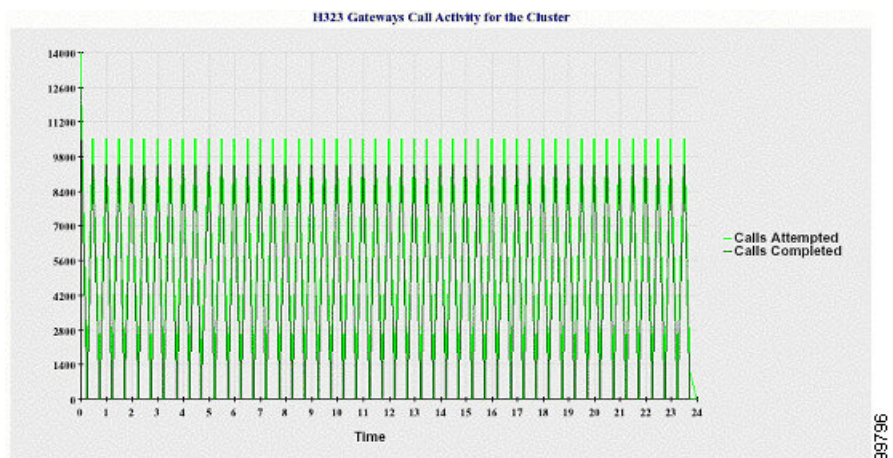


### クラスタの H.323 ゲートウェイ コール アクティビティ

折れ線グラフには、H.323 ゲートウェイの試行されたコールと完了したコールの数が表示されます。Unified Communications Manager のクラスタ構成では、折れ線グラフはクラスタ全体の試行されたコールと完了したコールの数を表示します。グラフは2本の線で構成されます。1本は試行されたコールの数、もう1本は完了したコールの数を示します。Unified Communications Manager のクラスタ構成では、各線はクラスタ値を表します。これは（データが利用できる）クラスタ内のすべてのサーバの値の合計と等しくなります。グラフ内の各データ値は、15分の間に試行されたコールと完了したコールの総数を表します。完了したH.323ゲートウェイ コールのデータが存在しない場合、完了したコールのデータを表す線は生成されません。試行されたH.323ゲートウェイ コールのデータが存在しない場合、試行されたコールのデータを表す線は生成されません。Unified Communications Manager のクラスタ構成では、クラスタ内のサーバのデータがない場合、Reporter はそのサーバで試行されたコールまたは完了したコールを表す線を生成しません。H.323ゲートウェイ コールアクティビティのデータがまったく存在しない場合、グラフは生成されません。

図 13: クラスタの H.323 ゲートウェイ コール アクティビティを示す折れ線グラフ

次の図は、Unified Communications Manager クラスタの H.323 ゲートウェイ コール アクティビティを表す折れ線グラフを示しています。

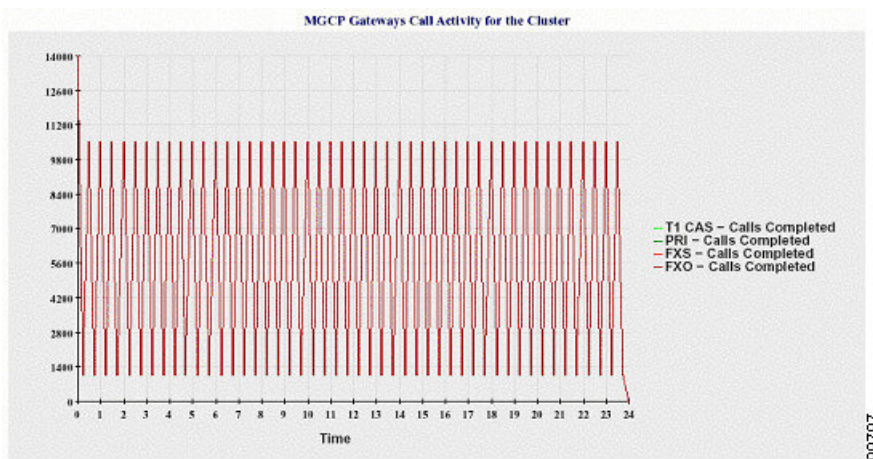


### クラスタの MGCP ゲートウェイ コール アクティビティ

折れ線グラフには、MGCP FXO、FXS、PRI、および T1CAS ゲートウェイの1時間に完了したコールの数が表示されます。Unified Communications Manager クラスタ構成では、グラフには Unified Communications Manager クラスタ全体の完了したコールの数が表示されます。グラフは最大4本の線で構成され、完了したコールの数が（データが利用できる）ゲートウェイタイプごとに示されます。グラフ内の各データ値は、15分の間に完了したコールの総数を表します。ゲートウェイのデータが存在しない場合、その特定のゲートウェイについて完了したコールのデータを表す線は生成されません。すべてのゲートウェイに関してデータが存在しない場合、グラフは生成されません。

図 14: クラスタの MGCP ゲートウェイ コール アクティビティを示す折れ線グラフ

次の図は、Unified Communications Manager クラスタの MGCP ゲートウェイ コール アクティビティを表す折れ線グラフを示しています。

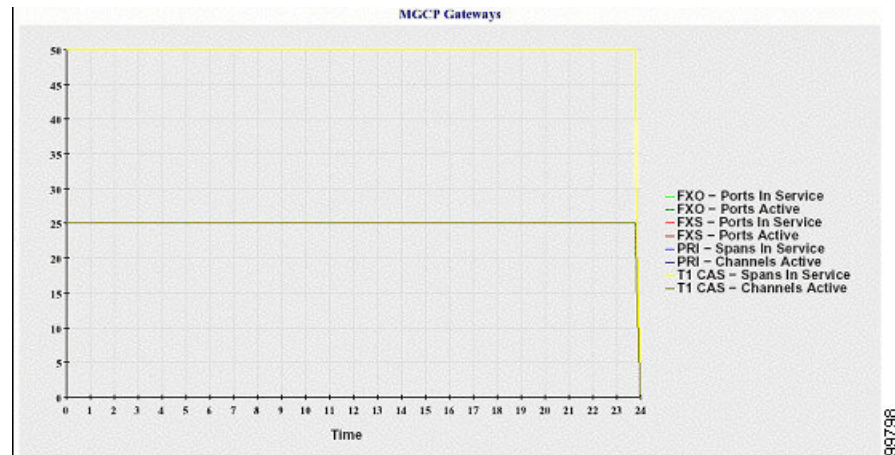


### MGCP ゲートウェイ

折れ線グラフには、MGCP FXO ゲートウェイと FXS ゲートウェイの稼働中のポートおよびアクティブポートの数、および PRI ゲートウェイと T1CAS ゲートウェイの稼働中のスパンまたはアクティブチャンネルの数が表示されます。Unified Communications Manager クラスタ構成の場合、グラフには Unified Communications Manager クラスタ全体のデータが表示されます。グラフは8本の線で構成され、MGCP FXO および FXS の稼働中のポートの数に2本、MGCP FXO および FXS のアクティブポートの数に2本割り当てられています。残りの4本は、PRI および T1CAS ゲートウェイの稼働中のスパンとアクティブチャンネルの数を示しています。Unified Communications Manager のクラスタ構成では、各線はクラスタ値を表します。これは（データが利用できる）クラスタ内のすべてのサーバの値の合計です。グラフ内の各データ値は、15分間での稼働中のポートの総数、アクティブポートの数、稼働中のスパンの数、またはアクティブチャンネルの数を表します。すべてのサーバについて、ゲートウェイ（MGCP PRI、T1CAS）の稼働中のスパンまたはアクティブチャンネルの数に関するデータが存在しない場合、そのゲートウェイのデータを表す線は生成されません。

図 15: MGCP ゲートウェイを示す折れ線グラフ

次の図は、MGCP ゲートウェイを表す折れ線グラフを示しています。

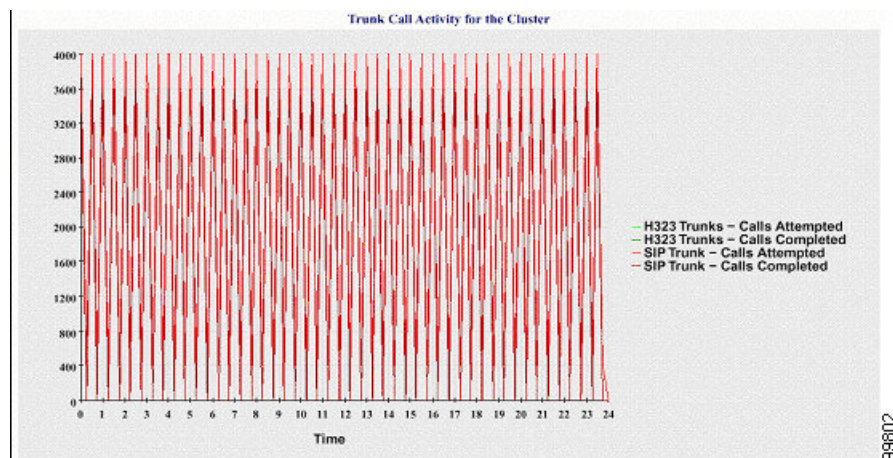


### クラスタのトランク コール アクティビティ

折れ線グラフには、SIP トランクと H.323 トランクの1時間に完了したコールと試行されたコールの数が表示されます。Unified Communications Manager クラスタ構成の場合、グラフには Unified Communications Manager クラスタ全体の完了したコールと試行されたコールの数が表示されます。グラフは4本の線で構成されます。2本は（データが利用できる）各 SIP および H.323 トランクの完了したコールの数、もう2本は試行されたコールの数を示します。Unified Communications Manager のクラスタ構成では、各線はクラスタ値を表します。これは（データが利用できる）クラスタ内のすべてのノードの値の合計です。グラフ内の各データ値は、15分の間に完了したコールの総数または試行されたコールの数を表します。トランクのデータが存在しない場合、その特定のトランクについて完了したコールまたは試行されたコールを表す線は生成されません。両方のトランクタイプに関してデータが存在しない場合、グラフは生成されません。

図 16: クラスタのトランク コール アクティビティを示す折れ線グラフ

下の図は、Unified Communications Manager クラスタのトランク コール アクティビティを表す折れ線グラフを示しています。





サーバ（または Unified Communications Manager クラスタ構成内の各サーバ）には、ファイル名パターン CallLog\_mm\_dd\_yyyy\_hh\_mm.csv に一致するログファイルが格納されています。ログファイルには次の情報が格納されています。

- Unified Communications Manager（または Unified Communications Manager クラスタ内の各サーバ）の試行されたコールおよび完了したコール
- H.323 ゲートウェイ（または Unified Communications Manager クラスタ内の各サーバのゲートウェイ）の試行されたコールおよび完了したコール
- MGCP FXO、FXS、PRI、T1CAS ゲートウェイ（または Unified Communications Manager クラスタ内の各サーバのゲートウェイ）の完了したコール
- （Unified Communications Manager クラスタ内の各サーバの）MGCP FXO ゲートウェイと FXS ゲートウェイの稼働中のポートおよびアクティブポート、および PRI ゲートウェイと T1CAS ゲートウェイの稼働中のスパンおよびアクティブチャンネル
- H.323 トランクと SIP トランクの試行されたコールおよび完了したコール

## アラート サマリー レポート

アラート サマリー レポートには、その日に生成されたアラートの詳細が表示されます。

クラスタ固有の統計情報は、Unified Communications Manager および IM and Presence Service でのみサポートされます。

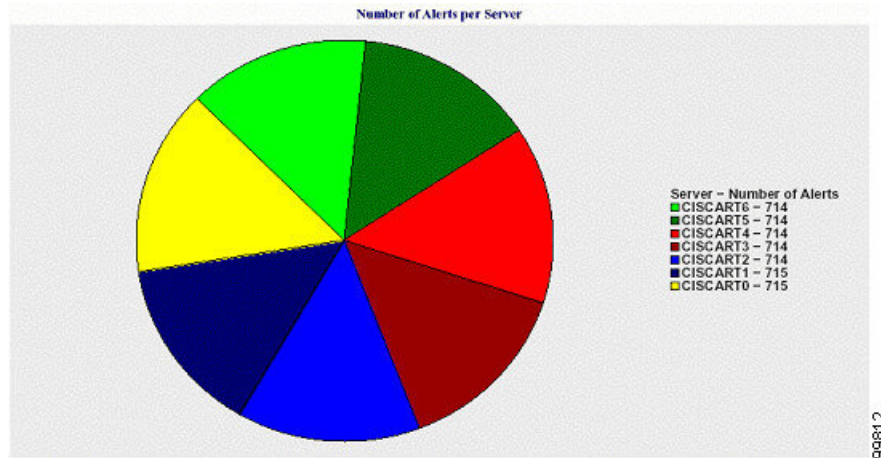
### サーバごとのアラートの数

クラスタ内のノードごとのアラートの数が円グラフに表示されます。グラフには、生成されたアラートのサーバ全体の詳細が表示されます。円グラフの各領域は、クラスタの特定のサーバに対して生成されたアラートの数を表しています。グラフには、クラスタ内のサーバ（Reporter によってその日にアラートが生成されたサーバ）と同じ数の領域が含まれます。あるサーバのデータがない場合、そのサーバを表すチャートの領域はありません。すべてのサーバのデータが存在しない場合はグラフが生成されません。「指定された日に生成されたアラートはありません」というメッセージが表示されます。

Cisco Unity Connection のみ：円グラフには、サーバのアラート数が示されます。グラフには、生成されたアラートのサーバ全体の詳細が表示されます。サーバのデータが存在しない場合はグラフが生成されません。「指定された日に生成されたアラートはありません」というメッセージが表示されます。

下のグラフは、Unified Communications Manager クラスタ内のサーバごとのアラートの数を表す円グラフの例を示します。

図 17: サーバごとのアラート数を示す円グラフ

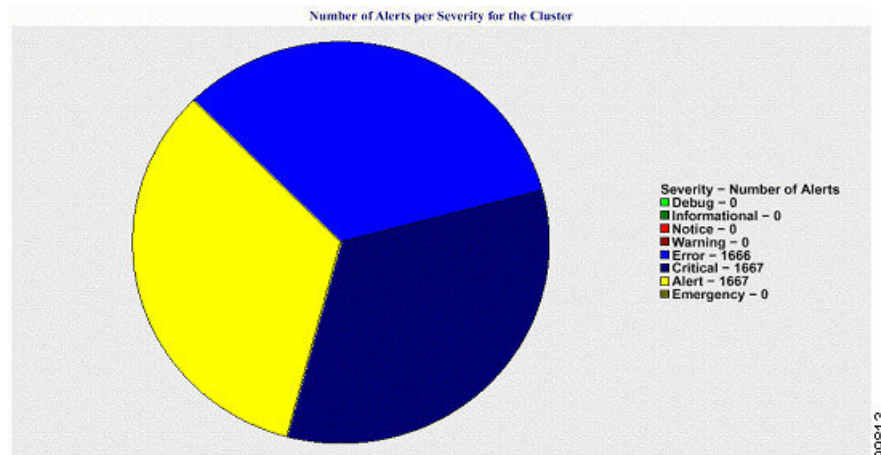


### クラスタの重大度ごとのアラート数

アラートの重大度ごとのアラート数が円グラフに表示されます。グラフには、生成されたアラートの重大度の詳細が表示されます。円グラフの各領域は、生成された特定の重大度タイプのアラートの数を表します。グラフには、(Reporterによってその日に生成されたアラートの) 重大度と同じ数の領域が含まれます。ある重大度のデータがない場合、その重大度を表すチャートの領域はありません。データが存在しない場合はグラフが生成されません。

下のグラフは、Unified Communications Manager クラスタの重大度ごとのアラートの数を表す円グラフの例を示します。

図 18: クラスタの重大度ごとのアラート数を示す円グラフ



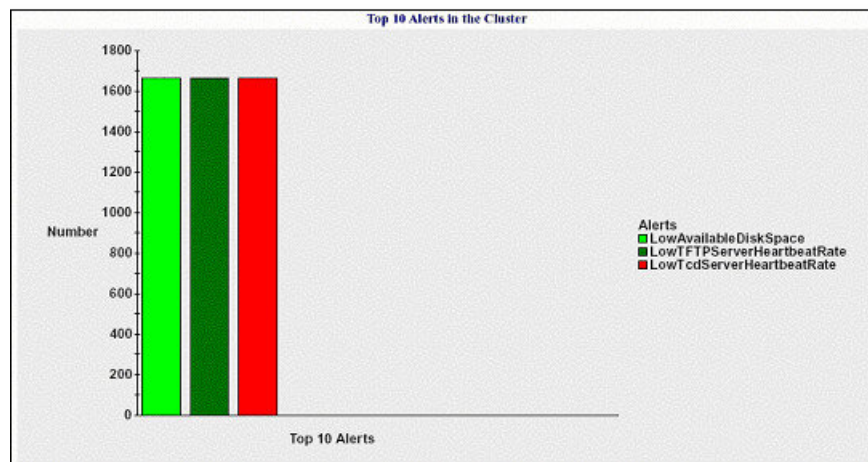
### クラスタ内の上位 10 のアラート

特定のアラートタイプのアラート数が棒グラフに表示されます。グラフには、アラートタイプに基づいて生成されたアラートの詳細が表示されます。それぞれの折れ線は、そのアラートタイプのアラートの数を表します。グラフには、アラート数が多いものから順に、最初の 10

個のアラートの詳細のみが表示されます。特定のアラートタイプのデータがない場合、そのアラートを表す折れ線はありません。アラートタイプのデータがない場合はグラフが生成されません。

下のグラフは、Unified Communications Manager クラスタ内の上位 10 のアラートを表す棒グラフの例を示しています。

図 19: クラスタ内の上位 10 のアラートを表す棒グラフ



サーバ（またはクラスタ内の各サーバ）には、ファイル名パターン AlertLog\_mm\_dd\_yyyy\_hh\_mm.csv に一致するログファイルが格納されています。ログファイルには次の情報が格納されています。

- 時刻：アラートが発生した時刻
- アラート名：わかりやすい名前
- ノード名：アラートが発生したサーバ
- モニタ対象オブジェクト：モニタされるオブジェクト
- 重大度：アラートの重大度

## パフォーマンス保護レポート

パフォーマンス保護レポートは、IM and Presence Service および Cisco Unity Connection をサポートしていません。

パフォーマンス保護レポートには、特定のレポートの統計情報を表示するさまざまなグラフで構成される要約が表示されます。Reporter は、ログに記録された情報に基づいてレポートを 1 日 1 回生成します。

パフォーマンス保護レポートは、過去 7 日間のデフォルト モニタリング オブジェクトに関する傾向分析情報を提供します。この情報により、Cisco Intercompany Media Engine に関する情報を追跡できます。レポートには、Cisco IME クライアントの総コール数およびフォールバックコール率を示す Cisco IME クライアント コール アクティビティ グラフが表示されます。

パフォーマンス保護レポートは、次のグラフで構成されます。

- Cisco Unified Communications Manager コール アクティビティ
- 登録済み電話機および MGCP ゲートウェイの数
- システム リソースの使用率
- デバイスとダイヤルプランの数量

### Cisco Unified Communications Manager コール アクティビティ

折れ線グラフには、試行されたコールと完了したコールの数の1時間ごとの増減率がアクティブ コール数として表示されます。Unified Communications Manager のクラスタ構成では、クラスタ内の各サーバのデータのグラフが作成されます。グラフは3本の線で構成され、それぞれ試行されたコールの数、完了したコールの数、およびアクティブ コールを示します。コール アクティビティのデータが存在しない場合、Reporter はグラフを生成しません。

### 登録済み電話機および MGCP ゲートウェイの数

折れ線グラフには、登録済み電話機および MGCP ゲートウェイの数が表示されます。Unified Communications Manager のクラスタ構成の場合、グラフにはクラスタ内の各サーバのデータが表示されます。グラフは2本の線で構成され、1本は登録済み電話機の数、もう1本は MGCP ゲートウェイの数を示します。電話機または MGCP ゲートウェイのデータがない場合、Reporter はグラフを生成しません。

### システム リソースの使用率

折れ線グラフには、サーバ（または Unified Communications Manager クラスタ構成のクラスタ全体）の CPU 負荷率とメモリ使用率（バイト）が表示されます。グラフは2本の線で構成され、1本は CPU 負荷、もう1本はメモリ使用率を示します。Unified Communications Manager のクラスタでは、各線はクラスタ値を表します。これは（データが利用できる）クラスタ内のすべてのサーバの値の平均です。電話機または MGCP ゲートウェイのデータがない場合、Reporter はグラフを生成しません。

### デバイスとダイヤルプランの数量

2つのテーブルに、デバイスの数およびダイヤルプラン コンポーネントの数に関する Unified Communications Manager データベースの情報が表示されます。デバイス テーブルは、IP フォン、Cisco Unity Connection ポート、H.323 クライアント、H.323 ゲートウェイ、MGCP ゲートウェイ、MOH リソース、および MTP リソースの数を示します。ダイヤルプラン テーブルは、電話番号と回線、ルート パターン、およびトランスレーション パターンの数を示します。